

## 作品の概要

### ■成田国際空港で活躍する麻薬探知犬

成田国際空港では、毎日約500機の旅客機が離着陸し、約9万人の旅行客が利用している。

その中で、この作品の主人公、麻薬探知犬が旅行客の荷物に目を光らせ、鼻を利かせて乱用薬物を探している。麻薬探知犬が覚せい剤や大麻などを発見し、摘発した件数は年々、増加している。では乱用薬物とは、どのようなものだろう。

以下、麻薬探知犬の声で語っていく。

### ■乱用薬物ってどんなもの？乱用するとどうなるの？

薬物といっても、身体の病気を治すためのものと、身体に害を与えるものがある。身体に害を与えるものは乱用薬物といって、法律でも厳しく禁止されている。薬物を遊びで使ったりすることを薬物乱用という。一回でも乱用薬物に手を出したとすると、身体にどのような影響がでるのだろうか。

ここでは分かり易い図解で、乱用薬物は正常な脳をおかしくしてしまうこと、そして、繰り返し、繰り返し、乱用薬物を使ってやめられなくなる「依存」を引き起こすことを説明していく。

川崎ダルクを訪ね、薬物依存を体験した人から、実際、身体にどのような影響がでてきたかも聞き出していく。

### ■なぜ薬物に手を出したの？

薬物依存の体験者に、どのような事がキッカケで乱用薬物を始めたのかを語ってもらう。乱用薬物を始める人は、最初は遊び半分でタバコや酒、そしてシンナーをやり始めていること、又、乱用薬物を使い続けていると幻聴や幻覚などが現れることなど、乱用薬物の恐怖が伝わってくる。

### ■乱用薬物に対しては外国でも厳しく罰せられる

最近、外国のある国では、日本の若者がトランクに乱用薬物を隠し、次々に逮捕されている。日本の若者は、どのようにして乱用薬物の運び屋になったのだろうか。逮捕した若者を調べている検察庁を訪ね、聞いてみる。外国の乱用薬物の売人は海外旅行や留学中の若者を狙い、小遣いやプレゼントを渡して親しくなり、乱用薬物の運び屋にしようとしているのだ。外国では乱用薬物を海外

へ持ち運ぼうとすると、無期懲役、死刑になることだってあることを訴える。

### ■薬物の正しい知識を身につけよう

小学生の周りにも乱用薬物の誘惑のワナがいっぱいある。乱用薬物を近づけないためには正しい知識を身につけることだ。ここでは、数名の小学生が、東京税関の情報ひろばを訪ね、乱用薬物について学習している姿を捉えていく。

ある小学校では、麻薬探知犬が訪問し、乱用薬物には、絶対に手を出さないと訴えている。

監修 国立大学法人兵庫教育大学大学院  
学校教育研究科教授 鬼頭英明

指導 財団法人日本学校保健会  
事務局次長 並木茂夫  
前・埼玉県川口市立十二月田中学校  
教諭 佐藤恵子

取材協力 東京税関  
川崎ダルク支援会  
仁川空港税関  
仁川地方検察庁

資料提供 関東信越厚生局 麻薬取締部

製作統括・監督 高木裕己

撮影 堀田泰寛  
淵上 拳／高橋哲也

韓国撮影 權 彝 (Kwon Lee)

制作・著作 株式会社映学社

■ライブラリー価格 ¥68,250円(税込)

■学校価格 ¥26,250円(税込)

■VHS・DVD [カラー約21分]

■2010年・映学社作品